

高等教育のための情報リテラシー基準

ドラフト 2.3

国立大学図書館協会 教育学習支援検討特別委員会

2014. 3

前文

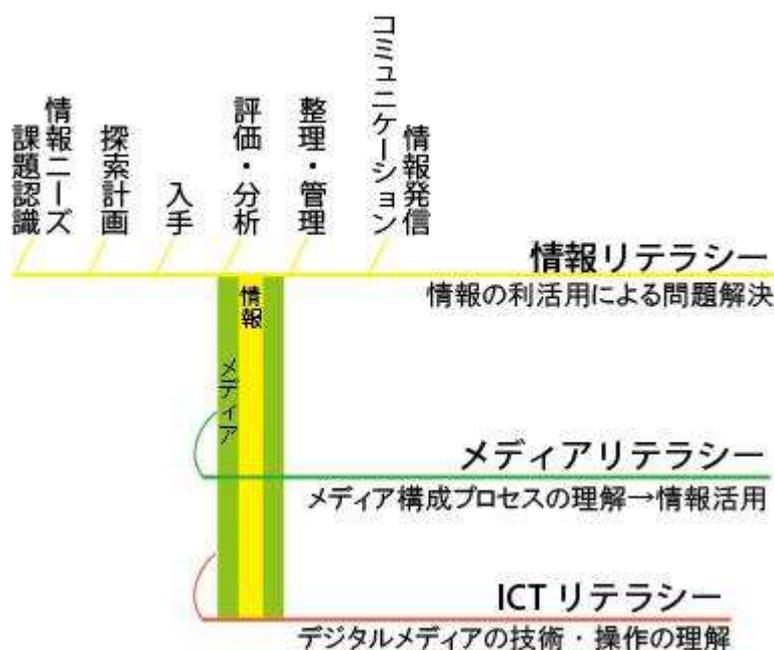
21世紀は知識基盤社会であると言われている。知識基盤社会において「情報」は、知識や技術とともに社会のあらゆる領域で発展の基盤として飛躍的にその重要性を増している。グローバルに技術革新が行われ、変化する社会を生き抜くためには、常に新しい知識、「情報」を入手し、それをもとに生涯学び続ける力が重要となる。

学び続ける力の中心となるのが、さまざまな情報源から発信される情報を利活用する情報リテラシーである。これは、学習者が主体的な人間として世界と対峙し、21世紀を豊かな社会としていくために求められる、問題解決力、論理的（批判的）思考力、創造的思考力の基盤となる能力でもある。

1. 情報リテラシーの定義

情報リテラシーは、情報が必要なときにそれを認識し、計画的に情報を収集、評価、整理、管理し、情報を活用して効果的に発信することができる能力である。

なお、類似のリテラシー概念として、ICTリテラシー、メディアリテラシー、ビジュアルリテラシーなどがある。これらは扱うメディアと取り組む視点の違いにより独自の領域を形成しているが、本質的にはお互いに深く関係しあっている。



情報リテラシーの概念図

2. 情報リテラシー基準の使い方

この基準は、高等教育において必要となる情報リテラシーとして身につけるべき知識、スキル及び全体の行動プロセスを示すものである。主に高等教育の場で用いられることを想定しているが、必ずしも大学など高等教育を受ける学生だけでなく、情報を活用しようとする人々が社会の様々な場において用いることも可能である。

この基準の適用にあたっては、それぞれの高等教育機関の機能や特性を考慮し、目的に合わせた使い方が求められる。その際には、必要に応じたカスタマイズが必要である。また、次のように使用する人の立場によっても違った形で使われることになる。

(1) 学生

学士課程及び修士、博士課程前期で学ぶために身につけるべき情報リテラシーに関する能力、スキルの水準を示すものであり、情報収集からレポート、論文を作成し発信するまでの過程に求められる自身の知識・スキルを把握し、向上させるための目安として活用できる。

(2) 教員

学生が高等教育における専門的な学習に進むための基礎となる情報リテラシー教育を計画し、学生の情報リテラシー能力を評価する基準となるもので、学習目標の設定やシラバスの作成、また、ルーブリックの作成にも活用できる。

(3) 大学経営者

学士課程教育における質保証を実現するための一つの基準となる。情報リテラシーを身につけた学生の育成は、主体的な学習や生涯学習の促進に繋がる。

(4) 図書館員

図書館が情報リテラシー教育を行う際の目標設定に活用でき、図書館員が、学生への体系的な情報リテラシー教育を企画、実施し、その成果の評価をする基準となる。また、授業など教員との連携においても学習目標や到達目標の共有が図れ、人的支援やコンテンツの活用など、図書館の持つ機能を十分に活かすことができる。

3. 情報リテラシー基準

情報リテラシーを身につけた人は、次のフェーズからなるプロセスを経て情報探索行動を行う。これは必ずしも直線的な過程を取るものではなく、いくつかのフェーズを往復しながら進んで行き、最後の創造的活用・発信から新たなニーズ・課題の認識へと繋がる円環を繰り返していくことになる。それぞれのフェーズで求められる能力は、置かれている環境や情報探索者の保持する能力によって違い、次第に高いレベルへと移行していくことになると考えられる。

第1フェーズ 情報ニーズ・課題を認識する。

情報ニーズを明確に示すことができ、必要となる情報の範囲を具体的に定めることができる。

- 1.1 自分が取り組むべき課題として正しく認識する。
- 1.2 課題に対処するために必要となる情報を認識する。
- 1.3 現時点で持っている情報を認識する。

第2フェーズ 情報の適切・効率的な探索を計画する。

情報ニーズを満たす情報を経済的、合法的、社会倫理的に適切で、かつ、効率的に探索する計画を立てることができる。

- 2.1 情報がどのように生成し、流通するかを理解する。
- 2.2 一般的に得られる情報の種類や特徴を理解する。
- 2.3 求める情報へのアクセスの方法及び入手を助けるサービスを理解する。
- 2.4 情報を探索する際の適法性、社会倫理への適合及び経済的合理性を理解する。

第3フェーズ 情報を適切、効率的に入手する。

情報を入手する手段を活用して、情報ニーズを満たすために必要な情報を適切、効率的に入手することができる。

- 3.1 図書館や情報入手を手助けするサービスを効果的に利用する。
- 3.2 情報の種類に応じて、適切なアクセス手法や検索ツールを用いる。
- 3.3 必要な情報を探すことができる検索スキルを身に付ける。
- 3.4 情報を正しく読み、情報ニーズに照らし合わせて取捨選択する。

第4フェーズ 収集した情報を評価・分析し、整理・組織する。

情報ニーズを満たす情報を評価・分析し、適切なツールを使用して情報を整理・組織することができる。

- 4.1 収集した情報やデータを信頼性、関連性、正確性などの点から評価・分析する。

4.2 情報を適切に整理、記述し、活用できるように組織することができる。

第5 フェーズ 知識体系を再構築する。

情報を批判的に自らの知識体系に組み込み、知識体系を再構築することができる。

5.1 情報を自らの知識体系に照らし合わせ、批判的に組み込む。

5.2 新たな情報を組み込むことで、自らの知識体系を再構築する。

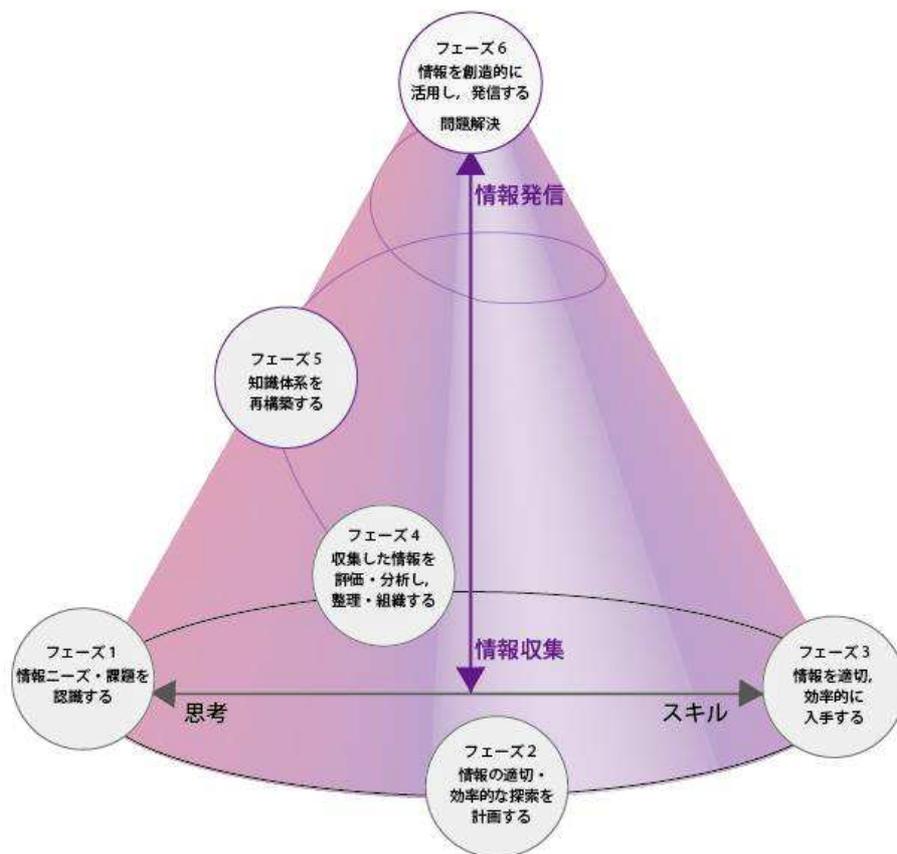
第6 フェーズ 情報を創造的に活用し、発信する。

情報を合法的、社会倫理的に適切にかつ創造的に活用し、発信し、情報を用いたコミュニケーションを行うことができる。

6.1 情報を利用する上で必要な法的及び社会倫理的な知識を持つ。

6.2 情報を発信する対象やコミュニティに相応しい形式を理解する。

6.3 情報を発信するために必要なスキルを持つ。



情報リテラシーを身に付けた人の行動プロセス

用語解説

知識基盤社会

平成 17 年に出された中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」において、「21 世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」(knowledge-based society) の時代であると言われる。」とされている。

ICT リテラシー

ICT (Information and Communication Technology : コンピュータ活用技術) を活用して情報を収集することができ、また、コミュニケーションできる能力。

メディアリテラシー

テレビやラジオなどの放送番組やインターネットによるものなど様々なメディアによって発信される情報をメディアの特性を理解した上で主体的に読み解き、判断できる能力。

ビジュアルリテラシー

芸術作品だけでなく、視覚的に表現されたものを適切に鑑賞し、そのメッセージを理解することができ、また、自ら創り出すことができる能力。

ルーブリック

学習の到達度を測定するための評価基準。課題を構成要素に分け、その要素を評価項目とし設定した評価基準により評価し、到達レベルを測る。

国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会

委員長： 佐野 充 名古屋大学附属図書館長
委員： 鈴木 宏子 北海道大学附属図書館利用支援課長
豊田 裕昭 東北大学附属図書館情報サービス課長
内島 秀樹 筑波大学附属図書館情報管理課長
杉田 茂樹 千葉大学附属図書館学術コンテンツ課長
森 いづみ お茶の水女子大学附属図書館図書・情報チームリーダー
長谷川順子 新潟大学学術情報基盤機構附属図書館学術情報サービス課長
村田 勝俊 金沢大学情報部情報サービス課長
次良丸 章 静岡大学学術情報部図書館情報課長
酒井 清彦 名古屋大学附属図書館事務部長
星屋 真 大阪大学附属図書館利用支援課長
野村 正人 広島大学図書館図書学術情報普及グループリーダー
渡邊由紀子 九州大学附属図書館利用支援課長

情報リテラシー教育検討小委員会

委員長： 酒井 清彦 名古屋大学附属図書館事務部長
鈴木 宏子 北海道大学附属図書館利用支援課長
森 いづみ お茶の水女子大学附属図書館図書・情報チームリーダー
次良丸 章 静岡大学学術情報部図書館情報課長
野中 雄司 室蘭工業大学附属図書館学術情報ユニット
村尾 真由子 筑波大学附属図書館情報サービス課
寺升 夕希 滋賀医科大学図書館
馬場 真紀子 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課支援チーム係長（教育研修事業担当）

アドバイザー： 野末俊比古 青山学院大学教育人間学部准教授

事務： 岡部 幸祐 名古屋大学附属図書館情報サービス課長
黒柳 裕子 名古屋大学附属図書館情報サービス課課長補佐

(2014.3 現在)

(参考) 高等教育における活用体系表

この体系表は、「高等教育のための情報リテラシー基準」を大学教育の場で活用するための参考として、大学図書館を中心とした実践例として作成した。

学生がセルフチェックに活用し、また、教員が評価に使うことを考慮し、初級からステップアップしながら最終的な到達目標である上級を目指す構成としている。

フェーズ	初級： 与えられたテーマ・情報源をもとにレポートを作成できる	中級： 与えられた課題について自らテーマを設定し、先行事例を踏まえた上で自らの意見を含んだレポートの作成、発表ができる	上級： 自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な論文の作成、発表ができる
1. 情報ニーズ・課題を認識する 1.1 自分が取り組むべき課題として正しく認識する 1.2 課題に対処するために必要となる情報を認識する 1.3 現時点で持っている情報を認識する	<input type="checkbox"/> 課題に意欲的に取り組むことができる <input type="checkbox"/> レポートの問題文の意図を正しく認識できる	<input type="checkbox"/> 与えられた課題に沿ったテーマを絞り込むことができる <input type="checkbox"/> 自ら設定したテーマについて問いを設定できる <input type="checkbox"/> 自分が設定したテーマについて他の人に説明できる	<input type="checkbox"/> 自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てられる <input type="checkbox"/> 課題解決のために不足している知識や情報を認識できる
2. 情報の適切・効率的な探索を計画する 2.1 情報がどのように生成し、流通するかを理解する 2.2 一般的に得られる情報の種類や特徴を理解する 2.3 求める情報へのアクセスの方法及び入手を助けるサービスを理解する 2.4 情報を探索する際の適法性、社会倫理への適合及び経済的合理性を理解する	<input type="checkbox"/> 学術情報の基本的な流れを知っている <input type="checkbox"/> 一般図書・参考図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット等、情報・メディアの種類や特性を知っている <input type="checkbox"/> 貸出・予約・レファレンス等、文献入手に関わる図書館サービスを知っている <input type="checkbox"/> 著作権法第31条(図書館等における複製)を理解し遵守できる	<input type="checkbox"/> 調査テーマに関する先行事例の調査方法を知っている <input type="checkbox"/> 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる <input type="checkbox"/> ひとつの事柄に対し、複数の情報源で確認する意識がある <input type="checkbox"/> 各種施設(博物館・公共図書館・文書館・美術館・行政機関等)の特徴を知っている <input type="checkbox"/> 著作権法・個人情報保護法など、情報を探索する際の適法性に留意できる	<input type="checkbox"/> 専門分野における学術情報の流れを理解している <input type="checkbox"/> 信頼性の高い情報を選択できる <input type="checkbox"/> 計画の実施においてプロセスのモニタリングができる
3. 情報を適切・効率的に入手する 3.1 図書館や情報入手を手助けするサービスを効果的に利用する 3.2 情報の種類に応じて、適切なアクセス手法や検索ツールを用いる 3.3 必要な情報を探すことができる検索スキルを身に付ける 3.4 情報を正しく読み、情報ニーズに照らし合わせて取捨選択する	<input type="checkbox"/> 所属機関の図書館の蔵書検索ツール(OPAC)を利用し、指定された資料を検索できる <input type="checkbox"/> 図書館における資料の配置・分類法を理解している <input type="checkbox"/> 与えられた情報源を検索できる	<input type="checkbox"/> 課題に応じてメディア(図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット・人的情報源)を選択し、情報を収集できる <input type="checkbox"/> 文献検索の検索語(同意語・上位語・下位語)を工夫できる <input type="checkbox"/> ブール演算子(AND・OR・NOT)を理解できる <input type="checkbox"/> データベースを活用し、必要な情報・資料を検索できる <input type="checkbox"/> 情報の出所や信頼性を点検・確認できる <input type="checkbox"/> 学術的な文献の構成に関する知識をもとに、情報ニーズに合う文献を効率的に選択できる <input type="checkbox"/> 参考引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる	<input type="checkbox"/> 先行研究論文等の引用文献リストを活かし、計画的に探索できる <input type="checkbox"/> 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードなどを見直すことができる <input type="checkbox"/> 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。
4. 収集した情報を評価・分析し、整理・組織する 4.1 収集した情報やデータを信頼性、関連性、正確性などの点から評価・分析する 4.2 情報を適切に整理、記述し、活用できるように組織することができる	<input type="checkbox"/> 学術的な文章の要旨をまとめることができる <input type="checkbox"/> 情報を分類できる	<input type="checkbox"/> 入手した情報の正確性と、調査テーマとの関連性を評価できる <input type="checkbox"/> 過去の情報と新たに入手した情報を比較できる <input type="checkbox"/> 資料リストを作成し、管理できる	<input type="checkbox"/> 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる <input type="checkbox"/> 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる
5. 知識体系を再構築する 5.1 情報を自らの知識体系に照らし合わせ、批判的に組み込む 5.2 新たな情報を組み込むことで、自らの知識体系を再構築する	<input type="checkbox"/> 入手した情報、データ及び意見を比較、分類して、自らの考えと類似する点や違う点を説明できる	<input type="checkbox"/> 複数の情報、データ及び意見を比較して、自らの考えとして最も相応しいものを客観的に選択できる。 <input type="checkbox"/> 選択した情報、データ及び意見を、自分の文脈で意味づけ、自分の言葉で説明できる	<input type="checkbox"/> 得た情報、データ及び意見を一般的な概念として構成し、それを新たに適用することで、知識として再構成できる。 <input type="checkbox"/> 再構成した知識をもとに、自らの知識体系を再構築し、自分の意見として説明できる
6. 情報を創造的に活用し、発信する 6.1 情報を利用する上で必要な法的及び社会倫理的な知識を持つ 6.2 情報を発信する対象やコミュニティに相応しい形式を理解する 6.3 情報を発信するために必要なスキルを持つ	<input type="checkbox"/> レポートの一般的な体裁を理解している <input type="checkbox"/> 読み手を意識してレポートをまとめることができる <input type="checkbox"/> 正しい引用のルールを知っている	<input type="checkbox"/> 引用と剽窃の違いを理解している <input type="checkbox"/> 他人の文章と自分の文章を区別して書くことができる。 <input type="checkbox"/> 事実に基づいた理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる <input type="checkbox"/> 提出先が規定した通りの方法で正しく引用できる <input type="checkbox"/> 自らの考えを、論拠を示しながら論理的に口頭で発表できる <input type="checkbox"/> レポートや口頭発表資料において図表・音声・画像を活用できる <input type="checkbox"/> 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理を理解している	<input type="checkbox"/> 情報を意思決定・問題解決・実験・調査に活用できる <input type="checkbox"/> 情報を活用するプロセスや明瞭性・正確性のモニタリングができる <input type="checkbox"/> 学術論文の構成に沿った文章を記述できる <input type="checkbox"/> 受け取る相手に適したメディア・形式で適切に発信できる <input type="checkbox"/> それぞれの発表の場に適した作法で口頭発表を行うことができる <input type="checkbox"/> 自分が発信した情報・論文を評価できる